



## 大切な人と会えなくなる時

石川 智信

コロナ感染の収束は一向に見通せず、非常事態宣言が解除されても世の中の暗鬱とした雰囲気は、なかなか払拭できない日が続いている。特に東京をはじめとする感染多発地域に居住していたために、親の死に目に立ち会えず、葬儀にも参列できなかった方たちはかなりの数に上ると考えられる。実際私自身も看取りを行う中で、遠方の家族と電話でお別れをしてもらったことがある。電話の向こうから聞こえる涙声はいつも以上にせつなく感じられた。そこまで自粛して私たちの社会は何を守ろうとしているのか、改めて考える必要があると思う。

先日 NHK のクローズアップ現代で、大切な人に会えなくなるというテーマが取り上げられていた。番組構成の一つの軸は、料理家の栗原はるみさんが1年前にご主人と死別した後の心の変遷であった。もう一つは認知症や脳卒中の後遺症でやむなく施設に入所していた妻や夫と、コロナ騒動で会えなくなった配偶者の思いが取り上げられていた。栗原さんはこの一年、ご主人のいないことを受け入れられず、ただただ悲しみの淵をさまよう日々であったという。一人の平凡な主婦が著名な料理家になるきっかけを作ってくれたのが夫であり、著名人となった後も日々励ましてくれた一番の応援団であったという。彼女にとって新作のレシピをまず夫に味わってもらい、その批評を聞くことが一番の楽しみであり喜びであった。

50年以上も連れ添いながら、生きているのに会えないという理不尽さを強いられている人たちの話も切ないものであった。人生の最終節を互いに寄り添いながら生活したいというささやかな希望も、社会を守るためには犠牲にせざるを得ないというのが大多数の人々のコンセンサスなのであろう。

栗原さんの今の心のよりどころは、死期を悟った夫玲児さんが残した手紙だという。そこには妻への素直な感謝の気持ちと応援のメッセージが綴られている。生き別れを強いられている人たちもまた、昔の夫婦の思い出となる手紙や写真を振り返ることが今の唯一の心の支えだという。

最近私の妻は、コロナ感染の影響で東京のデッサン教室に行けなくなり、地元の宮崎で新たな絵画教室に通い始めた。毎回新たな発見をするようで、スマホに撮った自分の絵を時系列に並べて「どうかなー」と見せたがる。小学校からずっと美術の評価が3以上になったことのない私には、あまり違いが判ず、「まあまあだね」とあいまいな返事をする。妻は「あーあ、やっぱり無理か、智信にはわからないねー」と憮然とした表情を見せる。

いつか私たちも別れの日が来る。残された者が少しでも前を向けるように、消え去った己に代わって寄り添うことのできる何かを残したい。妻はもう十分に残している。私はまだ何も残していない。大切な人と会えなくなってもずっと繋がりを続けるために、今現在の日常の思い出を大切にしなければと思う。

～私の卒業文～

## 大切なのは「家族と一緒に努力する事」

郡山 正孝

3年前、市の健康診断で再検査の連絡が来ました。県病院で精密検査をしてもらいポリープが出来ていると言われました。1年ほどは経過観察していましたが、再検査したら大きくなっていると言われました。市民の森病院に行って、胃カメラの上手な先生を紹介されて、胃のポリープを切除しました。手術して3日目、吐血で血を洗面器にいっぱい出ました。血圧が50ほどに下がって輸血しました。次の日も同じように吐血して輸血もやりました。私は脳梗塞・心疾患を既にしていたので、ワーファリンを飲んでいました。中止して輸血と点滴で治療を続けました。手術から2週間たったある日、孫や長男の名前が出てこなくなりました。検査の結果、胃は良くなりましたが、脳梗塞と診断され失語症になりました。退院までの2カ月はリハビリを頑張りました。妻や孫達が字を書いたり絵を書いたりして手伝ってくれました。お陰で少しずつ言葉が出てくるようになりました。けどまだ不安がありました。言葉が出てこなくて歯がゆい思いをしていたので、言葉のリハビリを続けたいと先生に言いました。そしたら、いしかわ内科を紹介してもらいました。退院してから1カ月は家にいました。リハビリを続けて言葉が出るようになりたい、という思いと、勉強が続く、というおっくうな気持ちがありました。でも、言葉が出るようになりたいといつも思っていました。初めていしかわ内科に見学に来た時、どんなリハビリをするのか不安でした。でも先生に対して安心感がありました。この人だったらいいかなと思いました。2年間ほどリハビリを楽しく勉強させていただきました。難しい事と簡単な事、出来る事と出来ない事、いろいろ勉強しました。最初はなかなか言葉が出なくて、イライラしたりしました。でも、最近は「言葉が伝わってるな」と実感する事が増えてきました。頑張って宮日新聞の「くろしお」を書きました。最初は2時間以上かかっていたのですが、今では1時間で書けるようになりました。

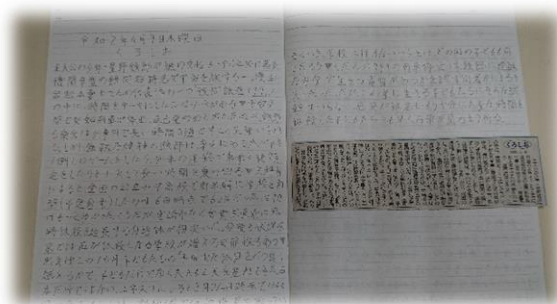


今年の1月運転免許の切替えがありました。車の運転をするとは思いませんでした。でも、免許証が無くなったら人として終わったように思いました。

免許証更新では認知症の検査をしました。リハビリで先生とやった事が出ました。お陰で運転免許合格出来ました。うれしかったです。2年間、西都から宮崎へ送り迎えしてくれた妻にありがとうと思います。言葉がなかなかうまく出来ないから、何回も何回も同じ事を教えてくれました。

孫達にもありがとうと思います。コロナのせいで、自宅待機している間、いつも一緒にいて話をしてくれました。最近は言葉が伝わっている事が実感できる事が多くなりました。先生は「孫パワー」と言っていました。やっぱり話が出来るのはうれしいです。

最後に石川内科の先生、蒲生先生、看護師さん、



スタッフの皆さん、長い間お世話様になりました。ありがとうございました。



## 祖母の気持ちと家族の気持ち

祇園デイサービスセンター  
作業療法士 柳田 千穂

私には今年で卒寿を迎える祖母がいる。数年前まで一人暮らしで生活していたが、現在は施設に入所している。祖母は料理好きで、家族で家に行った時や、お盆やお正月には食べきれないほどの手料理を毎回作ってくれた。そしてとても活動的で、居間でくつろぐ姿はほとんど見ることはなかった。いつも前向きで人を褒めることも多かった。

その祖母が6年程前に脳梗塞になった。元々活動的な祖母は入院生活が窮屈だったようで、入院生活の愚痴を耳にタコができるほど聞いた。リハビリの愚痴を聞いた時は上手く返す言葉がなく、同じリハビリ職の身としては悲しくなったことを覚えている。自宅に早く帰りたかった祖母は予定よりも早く退院し、在宅サービスを利用しながら無事に一人暮らしを続けることができた。祖母の息子である私の父は、仕事帰りや休日に片道2時間程かけて毎週延岡の祖母宅に通い介護を行っていた。そして2年程経ったころ祖母は再び脳梗塞になった。歩行や食事・排泄・更衣などは自分で行えるレベルであったが、以前のように活動的ではなくなり「家族に迷惑をかけるから早く死にたい」などと悲観的な発言もみられるようになった。元々食べ物の好き嫌いが激しいこともあり、栄養の偏りも見られた。

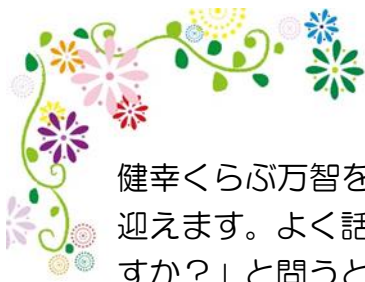
デイサービスやヘルパーは継続して利用していたが、ショートステイを利用することもあった。父はこれまで以上に定期的に祖母の自宅へ通い、介護を行っていた。私はその時期、県外で働いていた為ほとんど手伝うことができなかったが、仕事をしながら介護していた父はとても大変だったと思う。家族や親戚と協力し、在宅生活を何とか続けることが出来ないか考えたが、厳しいという結論になり施設に入所することになった。

祖母はとてもショックだったと思う。しかし家族にとってはそれが一番安心で安全であるし、父が介護している姿を知っていた私はこの選択は間違っていなかったと思う。施設入所した祖母ではあるが、父は1~2週間に1回会いに行き、毎回一緒に外食したり、時折自宅にも連れて帰っている。私も時々ではあるが祖母に会いに行っている。父や私以外にも母や親戚の人、孫、ひ孫に会うことができてる。

祖母は本当は在宅生活を続けたい気持ちがあったと思う。

しかし家族にとっては、介護の負担や環境面を考えるとどうしても限界がある。両者どちらの気持ちにも寄り添えるようにリハビリ職として自分は何ができるのか、働くうえで一つの課題であるなと感じた。





## 「慌てず、焦らず、のんびりと」

健幸くらぶ万智 増田十女

健幸くらぶ万智を利用し始めて早6年が経つ大野トミエさんは、今年の9月で100歳を迎えます。よく話し、よく笑い、そしてよく考えるトミエさんに「長生きの秘訣はなんですか?」と問うと「分からーん」とおっしゃいます。そこで同居する娘さんにこそっと聞いてみたところ、「毎日、大さじ1杯のハチミツをなめる」「味噌汁に小さじ1杯のきな粉を入れて食べる」「毎日、チョコレートを1~2個食べる」「牛乳に甘酒を大さじ2~3杯入れ温めて飲む」等、昔からの食生活を続けていらっしゃるようです。

そして、トミエさんは幼少時代から母親に言われ続けてきた「トミエ、頑張らんでいいよ」「トミエ、慌てんでいいよ」「一生懸命に身体を動かしても良いけど、翌日に頑張れる体力を少しは残す程度がいいよ」という言葉を心がけており、畑仕事にしても、家事にしても、何をするにでも今日まで慌てず、焦らず、のんびりとボチボチやってきたそうです。畑仕事は引退しましたが、娘さんの指導役であり、今でも米研ぎはトミエさんの日課で、米研ぎの音はリズム良く、いつまでも聞いていたい音だそうです。炊き立てのご飯は優しくふっくらとした仕上がりになり、甘みを増す美味しさとのこと。娘さんは「自分との違いは何なのか?」現在も修行中だそうです。



## 新人紹介

下川 慶子 いしかわ内科・看護師

5月に入職しました。皆様の在宅での生活を支える三友会のチームの一員として頑張ります。よろしくお願いいたします。



浦 理沙 いしかわ内科・看護師

6月より外来にて勤務しています。皆様が安心・安全に受診できるようお手伝いできればと思います。よろしくお願いいたします。



甲斐 育恵 厨房

6月16日より厨房に入職しました。美味しい給食作りを目指して頑張ります。よろしくお願いいたします。



田崎 潤 健幸くらぶ万智・介護職

5月から健幸くらぶ万智で働かせて頂いてます。デイサービスは初めてなので新鮮味を感じています。この感情を忘れず頑張っていきますので宜しくお願いします。

